

⑪ 敷地計画：新中央図書館の候補地とその適性

⑪-1 東舞鶴駅・西舞鶴駅の隣接候補地 適正比較

□東舞鶴駅、西舞鶴駅の駅近に中央図書館整備の適地を探して

全ての舞鶴市民にとって「専門性が高く資料情報の奥行きが深い中央図書館が欲しい」という要望が広がります。また、福知山市や宮津市の前例を引くまでもなく「行きやすい中心市街地の駅前」などで、車利用や公共交通との連携が担保された配置であるべきです。

この視点で、中央図書館が置かれるべき適地を、東舞鶴駅と西舞鶴駅の駅近で探すと、「東舞鶴駅東口の区画整理で生まれた都市公園」と「西舞鶴駅東口JR跡地の市有地」の2つの公有地が候補地として上がり、比較評価をしてみようということになりました。

□東舞鶴駅、西舞鶴駅の駅近中央図書館候補地を比較評価して

ふたつの候補地を比較する視点からは、以下のことが判りました。

- ① 市民利用の利便性、交通移動結節点として、双方に最適地性あり。
- ② 図書館中央館機能/施設配置の融通性として、東候補地はやや窮屈。
- ③ 具体化可能性、市民合意形成からは、東候補地に課題と疑問あり。

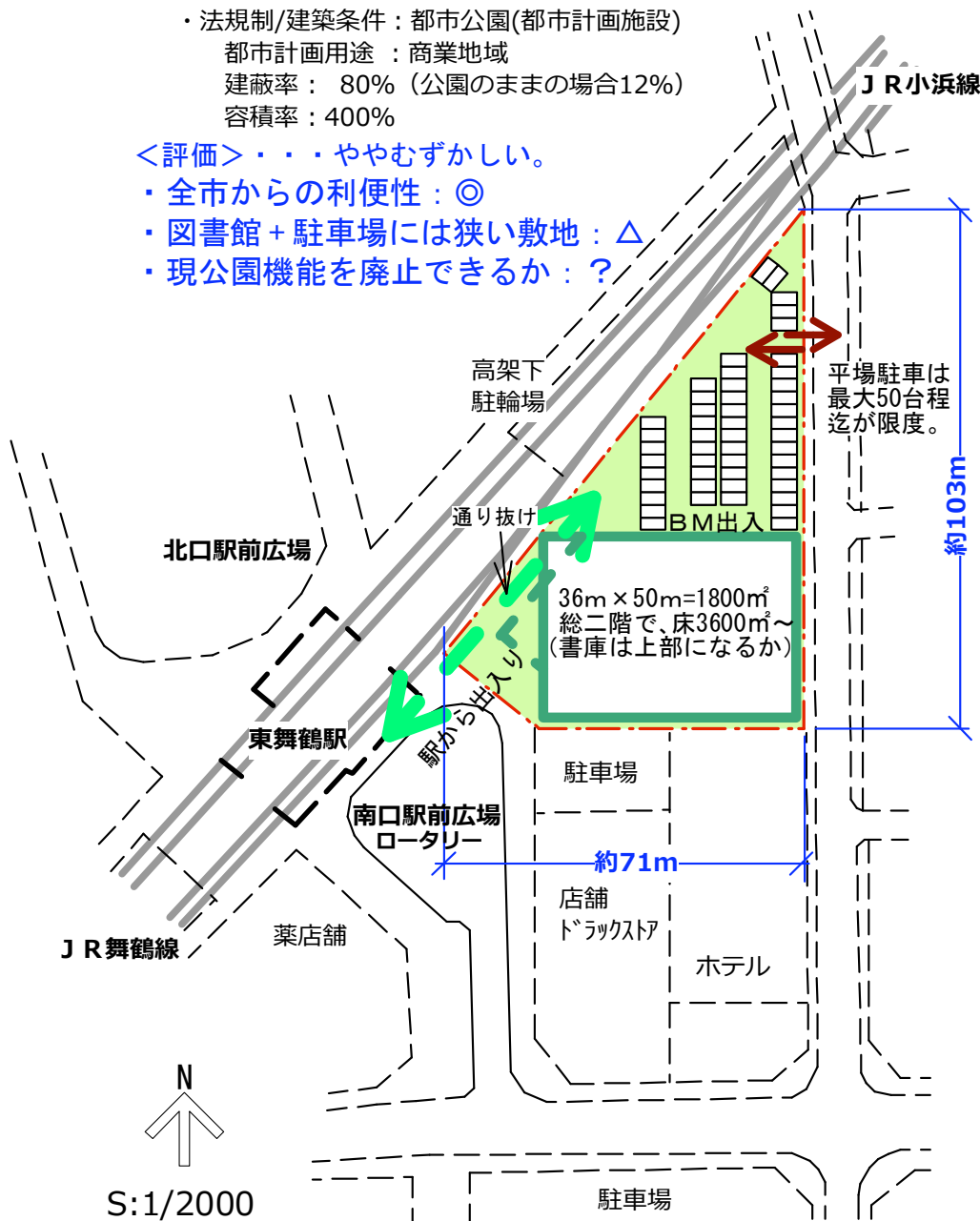
市民生活や都市計画の視点からは、都心循環バスの利便性評価や車利用型社会生活を考えると、東西候補地に甲乙を付けがたい。現状図書館の解決すべき課題は、中心市街地と郊外居住地へのサービス格差であり、中央図書館を公共交通結節点や幹線系道路沿いへの配置は、方針に合う。

- 東駅隣接候補地に想像される課題や疑問とは、
 - 区画整理で創出した都市施設を施設用地化する手続き、合意形成。
(都市公園内に図書館は法的に建築可能だが公園建蔽率では実現不可)
 - 現状は地域の有効な広場空地であり、コミュニティの利用が盛ん。
(周辺に地域コミュニティが使えるような代替え移転公園環境が無い)
- 西駅隣接候補地に想像される今後の確認事項は、
 - 城下町歴史区域としての調査。操車場跡地としての安全確認調査。
 - 河川堆積地の支持地盤層、流動化、地下水位、洪水調整基準の確認。

□ 東舞鶴駅/東口の都市公園を候補地と考えた場合

- ・ 現況都市公園面積：約 4,200㎡
- ・ 法規制/建築条件：都市公園(都市計画施設)
都市計画用途：商業地域
建蔽率：80% (公園のままの場合12%)
容積率：400%

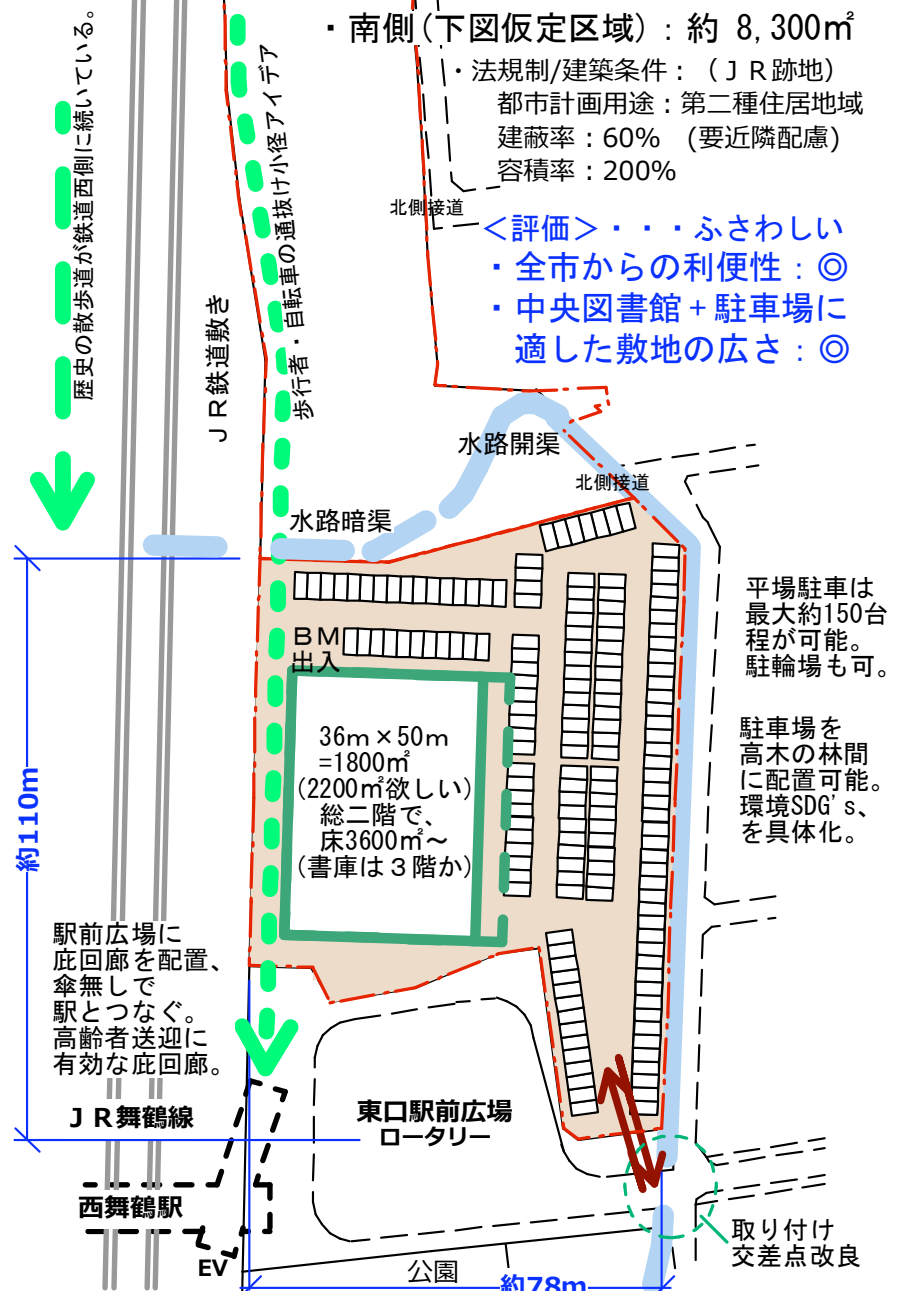
- <評価>・・・ややむずかしい。
- ・ 全市からの利便性：◎
 - ・ 図書館+駐車場には狭い敷地：△
 - ・ 現公園機能を廃止できるか：？



□ 西舞鶴駅/東口の市有地を候補地と考えた場合 (1.4ha)

- ・ 外堀(水路)より北側区域：約 5,700㎡
- ・ 南側(下図仮定区域)：約 8,300㎡
- ・ 法規制/建築条件：(JR跡地)
都市計画用途：第二種住居地域
建蔽率：60% (要近隣配慮)
容積率：200%

- <評価>・・・ふさわしい
- ・ 全市からの利便性：◎
 - ・ 中央図書館+駐車場に適した敷地の広さ：◎



※図書館への市民の声、要望
令和2年11月市民アンケートでは、1,322人の回答と、386件の自由記述意見があり、図書館サービスや施設統合など充実策、駐車場配慮など、全市域的視点からの意見に、刮目すべきものが多くありました。

※中央図書館の駐車場規模
現代の図書館で駐車駐輪場は重要。例えば、土日曜日の中央図書館に人口の5%が来館するとして、その30%市民1170人が3~5時に来館している状況を想像します。その15%が自家用車と仮定すると、175台程の駐車場が望まれます。近年、同規模図書館開館後に百台駐車場では不足した先例に学びます。駅界限に借地駐車場増設は難しく、駐車待ち道路渋滞回避も必要です。

※中央図書館の建築面積
現代の図書館建築の1階構成は、充分な開架室、全市BM奉仕部門交流域など主機能がワンフロアに(運営職員配置の集約効果もあり)配置されます。隣市宮津市図書館の例でも成人開架は小さめですが、主階は平場の配置で2140㎡程です。(トイレ階段共用部を含まぬ面積)下の検討では建築面積1800㎡程度の敷地検討ですが、1階床2200㎡以上は必要であると考えられます。